

うしふしねんぶつけんばい
牛伏念仏剣舞

- ◇ 指定日 平成6年11月21日
- ◇ 所在地 牛伏
- ◇ 保持団体 牛伏郷土芸能保存会

建久元年(1190年)に鎮西八郎為朝ちんぜいはちろうためともの三男為頼は、鎌倉幕府将軍源頼朝より閉伊・気仙の所領を安堵され、ろうきむらねじょう老木村根城に館を築いて、へいよりもと閉伊頼基と名乗りました。

頼基は父の菩提ぼだい とむらを弔うために華嚴院けごんいんを建立し、祖先や源氏一族・敵方平家などの戦没将士の霊を慰めるために、将士27人に踊らせ供養したのが牛伏剣舞の始まりといわれています。

踊り手は鉢巻に、閉伊氏ゆかりの家紋をつけた胴がけと鎧を着けます。長刀・扇・太刀を演目によって持ちかえて踊ります。

毎年お盆には牛伏地区の各家をまわって死者や祖先の霊をなぐさめ、16日には華嚴院で剣舞と七ツ踊りを供養として奉納しています。

演目…高太刀・城廻し・綾踊り

